

科目名	家畜育種	開講時期	2年生後期
		授業の形態	講義
ディプロマ ポリシー	実践的な知識・技術	時間数	15 時間
担当者名	落合 芳子	単位数	1 単位
科目の概要	(1)家畜の形質の遺伝を理解し、牛群の能力向上のための交配計画を作成する (2)家畜の検定や登録の仕組みを理解し、能力評価の方法を理解する		
身に付ける力	牛群の能力の評価と向上に必要な知識		
到達目標	(1)家畜の形質の遺伝を理解し、後継牛の能力向上を図ることができる。 (2)家畜の能力に応じて選抜・淘汰を行い、交配計画を作成することができる。		
授業計画	回	授業内容・方法	時間数
	1	遺伝の原理(遺伝子の構造と機能)	2
	2	遺伝子の原理(1)	2
	3	遺伝子の原理(2)	2
	4	家畜の主要形質の遺伝	2
	5	家畜の選抜、交配の方法	2
	6	家畜の能力検定、登録	2
	7	新しい家畜育種技術	2
	8	定期考查	1
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
テキスト・副教材			
評価方法	評価方法	観点	割合
	定期考查	知・技	80
	レポート		発表・成果物
	授業・実習態度	思・判・表・態	20
観点:「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度			

科目名	家畜解剖・疾病	開講時期	2年生後期		
		授業の形態	講義		
ディプロマ ポリシー	実践的な知識・技術	時間数	15 時間		
担当者名	笠井 亨浩、外部講師	単位数	1 単位		
科目の概要	(1) 牛の解剖学的構造の学修 (2) 伝染病や生産病の症状・原因の学修 (3) 飼養管理方法及び現場で発生する疾病の知識の習得				
身に付ける力	体調を崩した牛を早期に発見し、対処する知識・技術				
到達目標	(1) 家畜の解剖学的な構造を学修し異常を発見できる。 (2) 牛の伝染病や、生産病の症状・原因等を学修し、飼養管理に活かせる。				
授業計画	回	授業内容・方法	時間数	講師	
	1	家畜の健康状態観察のポイントと主な症状、解剖(1)	1	笠井 亨浩、外部講師	
	2	解剖(2)(骨格、筋肉、臓器、神経他)	1	笠井 亨浩、外部講師	
	3	生産病(1)	2	笠井 亨浩、外部講師	
	4	生産病(2)、消毒剤の有効性	2	笠井 亨浩、外部講師	
	5	中間試験	1	笠井 亨浩、外部講師	
	6	感染症とは	1	笠井 亨浩、外部講師	
	7	細菌とウィルス(1)	1	笠井 亨浩、外部講師	
	8	細菌とウィルス(2)	2	笠井 亨浩、外部講師	
	9	細菌とウィルス(3)、飼養衛生管理基準	2	笠井 亨浩、外部講師	
	10	飼養衛生管理基準、動物用医薬品の取扱い	1	笠井 亨浩、外部講師	
	11	定期考查	1	笠井 亨浩、外部講師	
	12				
	13				
	14				
	15				
テキスト・副教材	テレビ・ドクター4 デーリィーマン				
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点
	定期考查(中間試験30%)	知・技	80	実技テスト	
	レポート			発表・成果物	
授業・実習態度	思・判・表、態	20		研修評価	

観点:「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	営農計画(畜産)	開講時期	2年生前期			
		授業の形態	講義			
ディプロマ ポリシー	経営管理能力	時間数	15 時間			
担当者名	太田 壮洋	単位数	1 単位			
科目の概要	(1)就農に向けた手順、支援制度や作成等を理解する (2)営農に必要な資金の借入と返済を理解し、営農計画を作成する					
身に付ける力	営農に必要な計画を作成する知識					
到達目標	(1)就農に必要な手続きを理解する (2)就農に必要な書類を作成することができる (3)経営を継続するための計画を作成できる					
授業計画	回	授業内容・方法	時間数	講師		
	1	畜産物の価格形成要因	2	太田 壮洋		
	2	就農に必要な基礎知識	2	太田 壮洋		
	3	就農に向けた営農計画の作成（構造分析表の作成）	2	太田 壮洋		
	4	畜産経営の営農計画作成方法	8	太田 壮洋		
	5	まとめ（筆記試験を含む）	1	太田 壮洋		
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考查	知・技	80	実技テスト		
	レポート			発表・成果物		
授業・実習態度	思・判・表	20		研修評価		

観点：「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	飼料作物・草地管理演習	開講時期	2年生 通年			
		授業の形態	演習			
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術	時間数	20 時間			
担当者名	太田 壮洋、畜産技術部	単位数	1 単位			
科目の概要	(1) 飼料作物栽培の基礎知識の学修 (2) 作業機械を操作し、栽培から収穫・調整までの技術を習得 (3) 放牧草地の永続的な管理の方法を学修し、技術を習得					
身に付ける力	(1) 自給飼料の生産技術 (2) 放牧草地の管理技術					
到達目標	(1) 飼料作物の作付け計画を作成し栽培できる (2) 飼料作物の収穫・調整ができる (3) 草地管理ができる					
授業計画	授業内容・方法	時間数	講師			
	1 飼料作物栽培実習					
	2 堆肥散布、耕起、播種	10	太田 壮洋、畜産技術部			
	3 飼料作物調製実習					
	4 (1)刈取り、予乾、梱包、密封	6	太田 壮洋、畜産技術部			
	5 (2)放牧草地の管理	4	太田 壮洋			
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法		
	定期考查(中間試験30%)			機械運転技術 知・技・思・判断・表 50		
	レポート			発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表・態度	50	研修評価		

観点:「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	GAP演習	開講時期	2年生通年			
		授業の形態	講義			
ディプロマポリシー	経営管理能力	時間数	20 時間			
担当者名	關谷 敦子	単位数	1 単位			
科目の概要	(1) 畜産における生産工程管理の背景と取り組みの学修 (2) 認証及び継続審査に必要な取り組みに関する学修					
身に付ける力	GAP(農場HACCP)の継続的な取り組みと改善の実践					
到達目標	(1) GAP(農場HACCP)認証の取り組みの理解 (2) 生産工程管理の取り組みの実践					
授業計画	回	授業内容・方法	時間数	講師		
	1	飼養衛生管理基準の説明・実践	2	關谷 敦子		
	2	GAP(農場HACCP)実践の目的と点検方法	2	關谷 敦子		
	3	トヨタ「カイゼン」方式の説明・実践	2	關谷 敦子		
	4	ICT技術を用いた牛群管理方法の実践	2	關谷 敦子		
	5	各専攻現場における自己点検の実践(1)	2	關谷 敦子		
	6	各専攻現場における自己点検の実践(2)	2	關谷 敦子		
	7	各専攻現場における自己点検の実践(3)	2	關谷 敦子		
	8	各専攻現場における自己点検の実践(4)	2	關谷 敦子		
	9	各専攻現場における自己点検の実践(5)	2	關谷 敦子		
	10	次年度への改善提案	2	關谷 敦子		
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査			実技テスト		
	レポート	知・技・思・判・表	50	発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表・態	50	研修評価		

観点:「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	畜産飼養管理(酪農)	開講時期	2年生 通年			
		授業の形態	演習			
ディプロマ ポリシー	実践的な知識・技術	時間数	120 時間			
担当者名	落合 芳子、笠井 亨浩	単位数	6 単位			
科目的概要	(1) 乳用牛の関する知識や技術を学修 (2) 乳用牛の飼養管理を実践し、生産管理技術を習得 (3) 農家及び畜産関係機関等を視察し、先進的な取り組みや管理の違いの理解 (4) 県内外で開催される研修会や講習会等に参加し新たな知見を得る					
身に付ける力	就農又は就業した際の乳用牛を飼養管理する知識及び技術					
到達目標	(1) 乳用牛の飼養及び生産管理ができる (2) 県内の先進農家の取り組みや畜産関係機関の役割を知る (3) 研修会等で得られた知識等を飼養管理に活用する					
授業計画	回	授業内容・方法	時間数	講師		
	1	乳用牛の飼養管理	110	落合 芳子、笠井 亨浩		
	2	(1)飼い付け				
	3	(2)搾乳(データ管理含む)				
	4	(3)一般管理(床替え、牛舎洗浄等)				
	5	(4)除角				
	6	(5)放牧地管理				
	7	(6)肉用牛の飼養管理				
	8	農家及び試験研究機関等への視察	5	落合 芳子、笠井 亨浩		
	9	(1)家畜市場(子牛、成牛等)				
	10	(2)畜産農家				
	11	(3)農林総合技術センター畜産技術部				
	12	(4)その他				
	13	研修会等への参加	5	落合 芳子、笠井 亨浩		
	14	酪農関係研修会				
	15					
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考查			実技テスト		
	レポート	知・技・思・判・表	50	発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表・態	50	研修評価		

観点:「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	経営プロジェクト実習・卒業論文(酪農)	開講時期	2年生通年			
		授業の形態	実習			
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術、地域活性化力、豊かな人間性	時間数	720 時間			
担当者名	落合 芳子、笠井 亨浩	単位数	24 単位			
科目の概要	(1) 経営プロジェクト計画に基づき、新たな技術や改善の必要な課題を抽出し、その対策方法を検討、計画及び実践 (2) 得られた結果を取りまとめて生産性及び経済性を評価し、発表する					
身に付ける力	(1) 酪農経営に関する基礎知識・技術 (2) 課題設定、栽培計画作成、調査の実施、取りまとめに関する手法					
到達目標	(1) 収益性の向上につながる対策を計画し実践する (2) 実践した結果の効果を検証し、経済性の評価をする (3) 取り組んだ内容を図表等を使って取り纏め、発表する					
授業計画	授業内容・方法	時間数	講師			
	1 経営プロジェクト課題設定	5	落合 芳子、笠井 亨浩			
	2 試験項目の設定	10	落合 芳子、笠井 亨浩			
	3 設計書および中間報告書作成	10	落合 芳子、笠井 亨浩			
	4 経営プロジェクト実習	680	落合 芳子、笠井 亨浩			
	5 経営プロジェクト取りまとめ	30	落合 芳子、笠井 亨浩			
	6 卒業論文の作成	15	落合 芳子、笠井 亨浩			
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査			実技テスト	知・技・思・判・表	60
	レポート			発表・成果物	思・判・表	10
	授業・実習態度	思・判・表・態	30	研修評価		

観点:「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	畜産飼養管理(肉用牛)	開講時期	2年生 通年			
		授業の形態	演習			
ディプロマ ポリシー	実践的な知識・技術	時間数	120 時間			
担当者名	關谷 敦子、石川 豊、外部講師	単位数	6 単位			
科目的概要	(1) 肉用牛に関する知識や技術を学修 (2) 肉用牛の飼養管理を実践し、生産管理技術を習得 (3) 農家及び畜産関係機関等を視察し、先進的な取り組みや管理の違いの理解 (4) 県内外で開催される研修会や講習会等に参加し新たな知見を得る					
身に付ける力	就農又は就業した際の肉用牛を飼養管理する知識及び技術					
到達目標	(1) 肉用牛の飼養及び生産管理ができる (2) 県内の先進農家の取り組みや畜産関係機関の役割を知る (3) 研修会等で得られた知識等を飼養管理に活用する					
授業計画	回	授業内容・方法	時間数	講師		
	1	肉用牛飼養管理	110	關谷 敦子、石川 豊、外部講師		
	2	(1)給餌管理				
	3	(2)一般管理(畜舎・牛房内環境整備等)				
	4	(3)除角				
	5	(4)去勢				
	6	(5)鼻環装着				
	7	(6)放牧地管理				
	8	(7)乳用牛の飼養管理				
	9	全共出品に向けた取組				
	10	農家及び試験研究機関等への視察	5	關谷 敦子、石川 豊、外部講師		
	11	(1)家畜市場(子牛、成牛等)				
	12	(2)畜産農家				
	13	(3)農林総合技術センター畜産技術部				
	14	(4)その他				
	15	研修会等への参加	5	關谷 敦子、石川 豊、外部講師		
	16	肉用牛関係研修会				
	17					
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考查			実技テスト	知・技・思・判・表	60
	レポート	知・技・思・判・表	20	発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点:「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	経営プロジェクト実習・卒業論文(肉用牛)	開講時期	2年生通年		
		授業の形態	実習		
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術、地域活性化力、豊かな人間性	時間数	720 時間		
担当者名	關谷 敦子、石川 豊	単位数	24 単位		
科目的概要	(1) 経営プロジェクト計画に基づき、新たな技術や改善の必要な課題を抽出し、その対策方法を検討、計画及び実践 (2) 得られた結果を取りまとめて生産性及び経済性を評価し、発表する				
身に付ける力	(1)肉用牛経営に関する基礎知識・技術 (2)課題設定、生産計画作成、調査の実施、取りまとめに関する手法				
到達目標	(1)収益性の向上につながる対策を計画し実践する (2)実践した結果の効果を検証し、経済性の評価をする (3)取り組んだ内容を図表等を使って取り纏め、発表する				
授業計画	授業内容・方法	時間数	講師		
	1 経営プロジェクト課題設定	5	關谷 敦子、石川 豊		
	2 試験項目の設定	10	關谷 敦子、石川 豊		
	3 設計書および中間報告書作成	10	關谷 敦子、石川 豊		
	4 経営プロジェクト実習	680	關谷 敦子、石川 豊		
	5 経営プロジェクト取りまとめ	30	關谷 敦子、石川 豊		
	6 卒業論文の作成	15	關谷 敦子、石川 豊		
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
テキスト・副教材					
評価方法	評価方法	観点	割合		
	定期考查		実技テスト	知・技・思・判・表	60
	レポート		発表・成果物	思・判・表	10
	授業・実習態度	思・判・表・態	30	研修評価	

観点:「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	先進農家派遣研修	開講時期	2年通年			
		授業の形態	実習			
ディプロマ ポリシー	実践的な知識・技術、地域活性化力、豊かな人間性	時間数	150 時間			
担当者名	園芸G担当、畜産G担当、教務課	単位数	5 単位			
科目的概要	先進農家での1か月の農家体験研修					
身に付ける力	担い手としての営農意欲の向上					
到達目標	(1)実際の農業経営の実情を理解する。 (2)農業現場で培われた知恵や技術を習得する。 (3)担い手として必要な知識・技術を理解する。					
授業計画	回	授業内容・方法	時間数			
	1	先進農家派遣研修(1ヶ月間)	145			
	2	研修報告会	5			
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考查			成果表	知・技	20
	研修日誌・報告書	思・判・表、知・技	30	発表	思・判・表、態	50
	授業・実習態度			研修評価		

観点:「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度